

ユネスコスクール全国大会 大牟田で開催！

第9回ユネスコスクール全国大会が、九州で初めて大牟田市で開催されました。当日は、国内外から900名を超える方が参会されました。この参加人数は、世界大会が行われた平成26年度岡山大会に次ぐ歴代2位の記録です。国内のESD推進の機運が年々高まるとともに、大牟田市で展開されているユネスコスクールに関する取組が、全国の関係者の方々から大きく注目されていることの表れかと思えます。今号では、この大会の様子を中心に両面構成でお届けします。



全体会は、大正小学校の児童による「大牟田弁はおもしろか」で幕を開けました。大牟田の元気な子どもたちの姿をアピールできました。

○挨拶・施策説明



▲文部科学政務官
宮川 典子氏



▲日本ユネスコ国内
委員会委員長
安西祐一郎氏



▲大牟田市長
中尾 昌弘氏



▲文部科学省戦略官
池原 充洋氏



特別講演「国際的なユネスコスクールの動向を学ぶ」

ユネスコ本部教育局ユネスコスクール担当課長 ザビーネ・デツェル 氏

持続可能な開発目標(SDGs)の目標4(教育の推進)の方策を定めた「教育2030行動の枠組み」の構想に携わってこられた経験や国際社会の最新の動向をふまえ、今後のユネスコスクールについて、お話をいただきました。ザビーネ氏は、日本文化にも造詣が深く、前日の吉野小学校での公開授業等も参観され、「桜」について、ご自身の経験をもとに感想を述べておられました。大牟田市の様々な取組を高く評価していただき、「国際的な場においても紹介をしたい」とお話しされていました。

ESD大賞 文部科学大臣賞 吉野小学校



第8回ESD大賞文部科学大臣賞を吉野小学校が受賞しました。地域の課題を踏まえ、環境やまちづくり、世界遺産などESDの様々な取組を続けてきたことが評価されての受賞となりました。

パネルディスカッション

「50年後の社会に向けた人材育成」

急激な変化を遂げるこれからの社会を生き抜く資質・能力を育むための方策等について、福岡教育大学の石丸哲史教授が基調提案をされ、この提案をもとに、ESDの視点を踏まえて、パネラーが議論を繰り広げました。



全体会「ユネスコスクールのネットワーク化に向けた取組」

ユネスコスクール間の交流をさらにすすめていくための方策について、多摩市立連光寺小学校の棚橋乾校長をコーディネーターとして全体会が開かれ、ユネスコスクールのホームページの運用等について提案がなされました。本市の組織的な取組については、橘中学校から発表があり、全国に紹介されました。



今回の大会では、大牟田からも多くの分科会で発表が行われました。また、前日には吉野小学校等で公開授業が行われました。その様子を紹介します。

第2分科会

「地域素材の活用を学ぼう」



吉野小学校 教頭 高口 直喜
主幹教諭 藤木 春美

児童自身が、地域の活性化を図るためには、行動することが大切であると考え、「桜」を取り上げた「桜プロジェクト」。このプロジェクトを中心とした吉野小学校の取組をもとに、全国各地域における地域素材の活用法についてワークショップを通して、研鑽を深めました。

第5分科会

「世界文化遺産の効果的な学習を実践しよう」



駿馬北小学校 教諭 下地 徹

4年生から、発達段階に応じて時間的・空間的なものの見方・考え方が深まるようにするカリキュラムが紹介されました。地域の世界遺産、宮原坑を対象として、段階的に三池炭坑への理解を深め、郷土への愛情が育まれている実践、「子どもボランティアガイド」の紹介がありました。

第8分科会

「道徳、心の教育とESD」



中友小学校 教諭 平田 絵美

自分も地域の一員であることを自覚して、地域のためにできることを実行する子どもの育成を目指している「子ども民生委員活動」。この実践を通して、「人のつながりを大切にしたい」「今後も地域のためにできることをしていきたい」という子どもたちの地域とのつながりを大切にする心身の育成について、発表がありました。

吉野小学校の授業

1年生



▲むかしのあそびを
たのしもう

2年生



▲吉野のすてきを見
つけよう

3年生



▲有明海の生き物を
守ろう

4年生



▲生き生き
ビオトープ大作戦！

5年生



▲吉野小
桜プロジェクト

6年生



▲大牟田の未来を
えがこう

宮原中学校の授業



▲3年「地域の宝 世界へ発信」

橘中学校の授業



▲3年「人が真ん中のまちづくり」

※「おもてなし」を大切に多くの皆様をお迎えした今大会。この経験を踏まえ、大牟田のESDを次なるステージへ高めていきましょう！